

平成30年度

事業概要



鳥取県食肉衛生検査所

〒689-3203

とっとりけんさいはくぐんだいせんちょうこたけ
鳥取県西伯郡大山町小竹1291-7

TEL: 0859-54-2531

FAX: 0859-54-4814

E-mail: shokunikueisei@pref.tottori.lg.jp

目 次

I 総説	
1 沿革	1
2 組織及び職員の状況	2
3 職員配置	2
4 鳥取県食肉衛生検査所条例	3
5 と畜検査業務フローシート	4
6 施設の概要	5
7 主な検査機械器具	6
8 主要行事・職員の研修	7
9 と畜場概要	8
II 事業の概要	
1 食肉衛生検査状況	9
(1) と畜検査頭数	9
(2) 検査結果に基づく措置	9
(3) 病畜検査	9
(4) TSE (BSE) スクリーニング検査	9
(5) と畜検査の詳細	10
ア 月別と畜検査頭数	10
イ 月別病畜検査頭数	10
ウ 産地別搬入頭数	11
エ と畜場内とさつ頭数及び獣畜のとさつ解体禁止又は廃棄したものの原因	12
オ 病類別一部廃棄頭数	13
カ 病畜疾病別検査頭数	14
(6) 試験室内検査実施状況	15
ア 行政検査(精密検査)	15
イ 受託検査	15
ウ 調査研究	15
エ TSE (BSE) スクリーニング検査状況	16
2 と畜場等の衛生管理指導	16
(1) 枝肉等の衛生状態の把握	16
(2) 食品衛生月間	16
(3) 従事者の衛生教育	16
(4) 食品営業許可施設の監視指導	16
3 と畜検査データフィードバック事業	16
(1) 生産者へのフィードバック	16
(2) 臨床獣医師へのフィードバック	17
4 検体採取等の協力	18
5 調査研究	18
6 食肉衛生検査所PR事業	19
III 研究発表の記録	
1 過去10年間の学会・研修会発表記録	20～22
2 平成30年度発表論文	23
IV 参考資料	
1 年度別と畜検査頭数(鳥取県)	24
2 畜種別と畜検査頭数(鳥取県食肉センターと畜場)	24
3 と畜検査頭数の推移	25
4 全部廃棄原因別状況	26
5 検査結果に基づく処分頭数	27
6 鳥取県食肉衛生検査所案内図	27

I 総 説

1 沿 革

昭和58年 3月18日	鳥取県衛生環境部内に食肉衛生検査所開設準備委員会設置
昭和58年 6月 2日	(株)鳥取県食肉センターと鳥取県が土地売買契約締結 取得用地 鳥取県西伯郡名和町大字小竹字笹尾1291番地1のうち、1,483.53㎡
昭和58年 7月	食肉衛生検査所建設工事着工
昭和58年12月 2日	(株)鳥取県食肉センター「と畜場」許可（鳥取県指令受衛第25第1号）
昭和58年12月 5日	(株)鳥取県食肉センター試験操業開始 米子保健所管轄のため、と畜検査は米子保健所検査員を主体に、県内と畜検査員の応援を求めと畜検査開始
昭和58年12月13日	鳥取県行政組織規則の一部改正公布 59年1月1日施行 食肉衛生検査所職員定数8名 59年1月1日付人事異動発令 (技術吏員7名、事務吏員1名) 非常勤職員(事務)1名
昭和58年12月22日	食肉衛生検査所庁舎完成 鉄筋コンクリート平屋建633.45㎡
昭和59年 2月 1日	食肉衛生検査所竣工式
昭和60年 3月31日	(株)日清ハム付属と畜場廃止
昭和60年 5月 1日	米子保健所と畜検査員2名に食肉衛生検査所兼務発令
昭和60年 8月31日	米子市営と畜場廃止
昭和61年 4月 1日	食肉衛生検査所2名増員(本務発令)により職員定数10名(技術吏員9名)
昭和61年 5月 1日	食肉衛生検査所1名増員により職員定数11名(技術吏員10名)
平成 3年11月30日	中部食肉センターと畜場廃止
平成 8年 3月31日	鳥取市営と畜場廃止
平成10年 4月 1日	食肉衛生検査所1名減員により職員定数10名(技術吏員9名) (財)鳥取県食肉衛生協会事務所が食肉衛生検査所庁舎内に移転
平成12年 4月 1日	鳥取県食肉衛生検査所条例(鳥取県条例第16号)制定、同日施行
平成13年10月15日	BSE検査対応で食肉衛生検査所2名増員(技術吏員)
平成13年10月18日	BSE検査開始(平成13年9月10日、千葉県で国内最初のBSE確認される)
平成14年 7月 1日	食肉衛生検査所1名増員(技術吏員)
平成16年 1月31日	食肉衛生検査所20周年記念祝賀会
平成20年 4月 1日	食肉衛生検査所1名減員(職員定数13)事務次長を廃止し技術次長を配置
平成23年 8月11日	と畜された牛枝肉の放射性セシウム全頭検査を開始
平成24年 7月31日	と畜された牛枝肉の放射性セシウム全頭検査を終了
平成25年 4月 1日	食肉衛生検査所1名増員(技術吏員、職員定数14)
平成25年 7月 1日	BSE検査の対象牛を全頭から月齢48か月超に変更
平成26年 4月 1日	食肉衛生検査所1名減員(技術吏員、職員定数13)
平成29年 4月 1日	BSE検査の対象を月齢24か月以上の牛並びに全月齢のめん羊及び山羊のうち原因不明の神経症状等が認められる場合に変更
平成30年 4月 1日	食肉衛生検査所1名減員(技術吏員、職員定数12)

2 組織及び職員の状況

(1) 組織 (平成30. 4. 1現在)

生活環境部 — 暮らしの安心局 — 暮らしの安心推進課 — 食肉衛生検査所 — } 管理検査担当
} 試験検査担当

(2) 職員の状況 (平成30. 4. 1現在)

区分	所長	次長	課長補佐	係長	衛生技師	非常勤職員等	計
技術吏員	1	1	2	3	5*	5**	17
事務吏員						1	1
計	1	1	2	3	5	6	18

*欠員2名

**非常勤技術吏員は3人役に5人を配置

3 職員配置

(平成30. 4. 1現在)

職名		所掌事務
所長		総括
次長		事務の総括
管理検査担当	課長補佐 (1名)	管理検査担当総括、と畜検査、BSE検査
	係長 (2名)*	と畜検査、BSE検査 *1名は産前産後休暇及び育児休業
	衛生技師 (2名)	と畜検査、BSE検査
試験検査担当	課長補佐 (1名)	試験検査担当総括、と畜検査、BSE検査
	係長 (1名)	と畜検査、BSE検査
	衛生技師 (3名)	と畜検査、BSE検査
非常勤職員(3人役) (と畜検査員5名)		と畜検査
非常勤職員(1名)		一般事務

4 鳥取県食肉衛生検査所条例

制定：平成12年3月28日(鳥取県条例第16号)

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第156条第1項の規定に基づき、と畜検査及びと畜場の衛生並びにと畜場における食品衛生に関する事務を所掌させるため、鳥取県食肉衛生検査所(以下「検査所」という。)を西伯郡大山町に設置する。(平16条例68・一部改正)

(所管区域)

第2条 検査所の所管区域は、鳥取県の区域とする。

(手数料の徴収)

第3条 検査所において行う業務については、別表に定めるところにより、手数料を徴収する。

(手数料の減免)

第4条 知事は、特別の理由があるときは、規則で定めるところにより、手数料を減免することができる。

(規則への委任)

第5条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

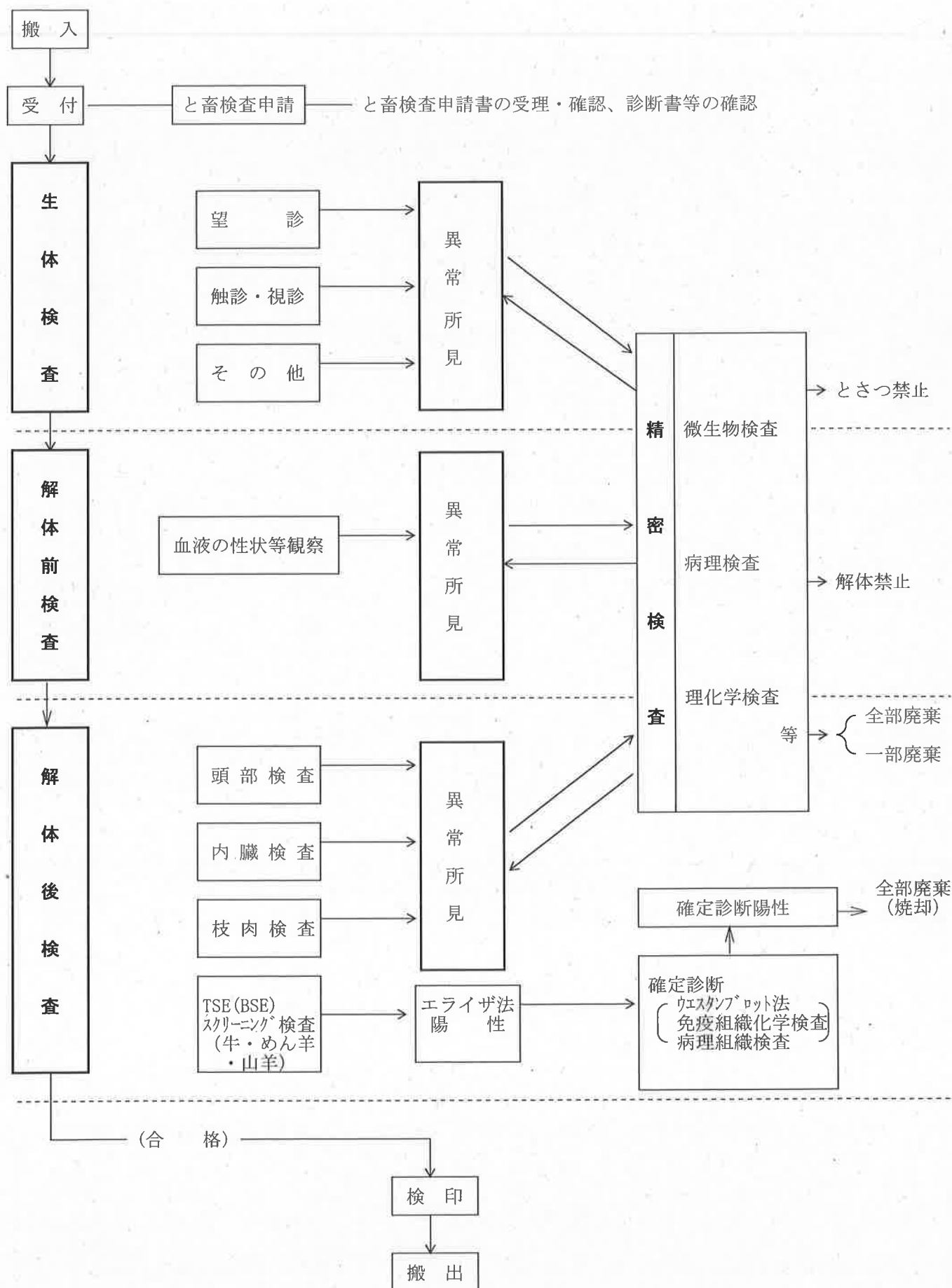
附 則(平成17年条例第100号)

この条例は、平成18年4月1日から施行する。

別表(第3条関係)

区 分	金 額
1 と畜場法(昭和28年法律第114号)第14条第1項から第3項まで(同条第4項において準用する場合を含む。)の規定による検査	
(1) 病畜以外の獣畜	
ア 生後1年未満の牛又は馬	
(ア) 生体50キログラム未満	1件につき 200円
(イ) 生体50キログラム以上	1件につき 450円
イ 生後1年以上の牛又は馬	1件につき 900円
ウ 豚	1件につき 420円
エ めん羊又は山羊	1件につき 200円
(2) 病畜	1件につき 1,300円
2 食肉の規格試験	
(1) 前処理の必要がないもの又は前処理として溶媒に溶解するものその他これに類する程度の前処理を行なうもの	1件につき 3,300円
(2) (1)以外のもの	1件につき 34,100円
3 食肉の一般試験	1成分につき 3,300円
4 証明書の発行	1通につき 420円

5 と畜検査業務フローシート



6 施設の概要

□ 敷地・建物

■ 敷地面積……1,483.53㎡

■ 建物面積……633.45㎡

- 事務室・所長室 92.4㎡ ● 病理組織検査室 50.8㎡
- 微生物検査室 47.8㎡ ● 理化学検査室 42.4㎡
- BSE検査室 61.5㎡ ● その他 338.5㎡
- 会議室 49.7㎡ ○ 車庫 16.1㎡

□ 建物平面図(鉄筋コンクリート平屋建)



□ 配置図(鳥取県食肉センター内)



7 主な検査機械器具

(1) 微生物検査

品名	数量	品名	数量
メディカルフリーザー	1	トランスイルミネーター	1
冷凍冷蔵庫	1	電気泳動ゲル撮影装置	1
冷蔵庫	1	遺伝子増幅装置	2
オート高圧滅菌器	2	微量高速冷却遠心機	1
クリーンベンチ	1	超音波洗浄器	1
ストマッカー	2	アイススライサー	1
恒温振盪水槽	1	実体顕微鏡	1
乾熱滅菌器	2	顕微鏡	1
インキュベーター	1	蛍光微分干渉顕微鏡	1
電気ふらん機	1	デシケーター	1
電気泳動装置	1		

(2) 病理検査

品名	数量	品名	数量
冷凍冷蔵庫	1	生物顕微鏡	1
小型滑走式マイクロトーム	1	ディスクッション顕微鏡	1
マイクロトームホルダーセット	1	電気恒温器	1
マイクロトームクリオスタット	1	パラメディカル撮影装置	1
恒温乾燥器	1	赤外線水分計	1
パラフィン包埋装置	1	スマートティッシュプロセッサ	1
インキュベーター	1		

(3) 理化学検査

品名	数量	品名	数量
パラメディカルフリーザー	1	電子天秤	1
冷凍冷蔵庫	1	振とう機	1
PHメーター	1	臨床用ヘマトクリット遠心機	1
ホモジナイザー	2	分光光度計	1
ドラフトチャンバー	1	臨床化学自動分析装置	1
多項目自動血球計数装置	1		

(4) BSE検査

品名	数量	品名	数量
冷蔵庫	1	マルチビーズショッカー	1
メディカルフリーザー	1	卓上細胞破砕器	1
インキュベーター	1	超音波ホモジナイザー	1
上皿電子天秤	1	マイクロプレートリーダー	2
高圧滅菌器	2	マイクロプレートウォッシャー	1
安全キャビネット	2	アルミブロック恒温槽	1
高速マイクロ冷却遠心器	1	プレートインキュベーター	1
ロータ	1		

(5) その他

品名	数量	品名	数量
プロジェクター	1	薬品庫	1
カメラ・デジタルカメラ	3		

8 主要行事・職員の研修

開催月	会議名・研修(講習会)名	開催地
4月	平成30年度生活環境部連絡会議	鳥取市
	平成30年度第1回食品衛生担当者会議	鳥取市
	第2回家畜慢性疾病対策推進全国会議	東京都
5月	平成30年度獣医学術中国地区学会に係わる鳥取県内幹事会	鳥取市
	平成30年度全国公衆衛生獣医師協議会第1回理事会	東京都
6月	平成30年度獣医学術中国地区学会幹事会	米子市
	平成30年度食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者研修会	東京都
7月	第61回鳥取県公衆衛生学会	鳥取市
	第52回鳥取県獣医学会	鳥取市
	平成30年度食品衛生担当職員業務研究発表会	鳥取市
	平成30年度全国食肉衛生検査所長会議及び第54回全国食肉衛生検査所協議会全国大会	新潟市
	(株)鳥取県食肉センター畜魂祭	大山町
	食肉センター作業員衛生講習会	大山町
	米子南高等学校生徒実習	大山町
	鳥取大学公衆衛生学実習	大山町
8月	鳥取環境大学学生見学	大山町
9月	平成30年度全国公衆衛生獣医師協議会全国大会	東京都
	平成30年度全国公衆衛生獣医師協議会第2回及び第3回理事会	東京都
	平成30年度獣医学術中国地区学会	米子市
	平成30年度中国公衆衛生獣医師協議会役員会	米子市
10月	第36回全国食肉衛生検査所協議会理化学部会総会及び研修会	宇都宮市
	第29回全国食肉衛生検査所協議会中国・四国ブロック会議及び技術研修会	岡山市
	平成30年度と畜場HACCP導入における指導及び検証の平準化に資する研修	岡山市
11月	全国食肉衛生検査所協議会病理部会及び第75回病理研修会	相模原市
	第37回全国食肉衛生検査所協議会微生物部会総会・研修会	横浜市
	学校法人松柏学院 倉吉北高等学校生徒実習	大山町
1月	平成30年度第2回食品衛生担当者会議	倉吉市
	平成30年度食肉衛生技術研修会及び食肉衛生発表会	東京都
2月	平成30年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会	横浜市

9 と畜場概要

(平成31.3.31現在)

名 称	鳥取県食肉センター	処理能力(日)	大動物：60 小動物：550
設置者	㈱鳥取県食肉センター	とさつ方法	大動物：銃撃 小動物：電撃
管理者	㈱鳥取県食肉センター	冷蔵(冷凍)庫	枝肉 牛177頭、豚1,095頭
所在地	西伯郡大山町小竹1291-1	使用水	井戸水
許可年月日	昭和58年12月2日	汚物焼却能力	焼却炉 195kg/時
と畜場区分	一般と畜場	汚水処理	1,000t/日 活性汚泥法(三次処理)
と畜場番号	6	血液処理装置	有
敷地面積	48,880㎡	部分肉処理 施設	有(960㎡)
建物構造面積	鉄筋7,502㎡		

Ⅱ 事業の概要

1 食肉衛生検査状況

(1) と畜検査頭数

平成30年度における総検査頭数は89,426頭で、畜種別内訳は、牛は6,035頭(和牛1,797頭、乳牛4,238頭)、豚は83,370頭、とく7頭、めん羊10頭、山羊3頭、馬1頭であった。年間の1日当たりの平均検査頭数は、牛25頭、豚345頭であった。

(2) 検査結果に基づく措置

検査の結果、と体の一部を廃棄するなどの処分をした総頭数は34,072頭(総検査頭数の38.1%)であった。

ア 禁止

とさつ禁止処分の獣畜はなかった。

イ 全部廃棄

全部廃棄頭数は299頭で、畜種別では牛170頭、豚128頭、とく1頭であった。原因別では、豚丹毒19頭、膿毒症64頭、敗血症62頭、尿毒症5頭、高度の黄疸18頭、高度の水腫86頭、牛白血病34頭、白血病2頭、腫瘍の多発1頭、全身性の筋肉変性8頭であった。

ウ 一部廃棄

筋肉、内臓の一部を廃棄したものは、33,773頭で、畜種別では牛4,199頭(処分率69.6%)、とく5頭(71.4%)、豚29,569頭(35.5%)であった。

(3) 病畜検査

生体検査時に起立不能、歩行困難等の異常があるなど、何らかの疾病が疑われた650頭の病畜を検査した。畜種別では、牛642頭(98.8%)、とく6頭(0.9%)、豚1頭(0.2%)、馬1頭(0.2%)であった。

検査の結果、全部廃棄処分したものは156頭(牛155頭、とく1頭)であり、畜種別の全部廃棄率としては牛24.1%、とく16.7%であった。

(4) TSE (BSE) スクリーニング検査

平成13年10月18日から全国一斉に開始されたBSE(牛海綿状脳症)検査及び平成17年10月1日から実施が開始されたTSE(伝達性海綿状脳症)検査について、その後の規則改正により、平成17年8月1日からBSE検査では月齢が21か月以上の牛、及び平成17年10月1日からTSE検査では月齢が12か月以上のめん羊・山羊が対象とされていたが、本県では全頭を対象に検査を実施していた。

平成25年7月1日の規則改正により、BSE検査では月齢が48か月超の牛が対象とされたため、牛の全頭検査を終了し48か月超の牛のみ検査を実施していたが、平成29年2月13日の規則改正により、健康牛に係る検査は廃止され、めん羊及び山羊についても疑わしい場合のみ検査を行うこととなり、平成30年度は該当するものがなかった。

(5) と畜検査の詳細

ア 月別と畜検査頭数

月	総頭数	牛			馬	とく	豚	めん羊	山羊	開場日数
		和牛	乳牛	計						
4	6,820	180	377	557			6,262	1		20
5	7,421	143	372	515		2	6,900	2	2	21
6	6,863	130	321	451			6,411	1		21
7	7,248	169	360	529	1	1	6,717			20
8	8,409	109	389	498		1	7,910			21
9	7,372	132	330	462			6,910			19
10	8,150	162	366	528		1	7,621			22
11	7,713	195	391	586		1	7,125		1	21
12	7,378	144	405	549			6,829			19
1	7,657	142	330	472			7,185			19
2	6,938	148	299	447			6,490	1		19
3	7,457	143	298	441		1	7,010	5		20
30年度合計	89,426	1,797	4,238	6,035	1	7	83,370	10	3	242
29年度合計	86,022	1,823	4,317	6,140	0	8	79,870	3	1	242
前年度比(%)	104.0	98.6	98.2	98.3	—	87.5	104.4	333.3	300.0	100.0

イ 月別病畜検査頭数

月	総頭数	牛			馬	とく	豚	めん羊	山羊
		和牛	乳牛	計					
4	50	5	45	50					
5	56	3	50	53		2	1		
6	58	4	54	58					
7	47	1	45	46	1				
8	82	8	73	81		1			
9	53	5	48	53					
10	70	13	56	69		1			
11	46	3	42	45		1			
12	48	4	44	48					
1	53		53	53					
2	44	7	37	44					
3	43	1	41	42		1			
30年度合計	650	54	588	642	1	6	1	0	0
29年度合計	599	56	536	592	0	3	4	0	0

ウ 産地別搬入頭数

産地	牛	馬	とく	豚	めん羊	山羊
鳥取市	568			1,926		
岩美町	19			0		
八頭町	154		1	0		
若桜町	54			379		
智頭町	18			0		
(東部地区計)	813	0	1	2,305	0	0
倉吉市	370			3,635		
湯梨浜町	0			0		
三朝町	98		1	0		
北栄町	342			3,032	1	
琴浦町	3,506	1	4	17,833		
(中部地区計)	4,316	1	5	24,500	1	0
米子市	13			2	2	
境港市	0			0	4	3
南部町	131			176	2	
伯耆町	40			0		
日吉津村	0			0		
大山町	496			54,791	1	
日南町	8			0		
日野町	11			0		
江府町	30			0		
(西部地区計)	729	0	0	54,969	9	3
鳥取県合計	5,858	1	6	81,774	10	3

産地	牛	馬	とく	豚	めん羊	山羊
北海道	37		1			
栃木	1					
島根	9					
岡山	5					
広島	8					
愛媛	6			1,596		
高知	102					
長崎	1					
宮崎	4					
鹿児島	4					
県外合計	177	0	1	1,596	0	0
総計	6,035	1	7	83,370	10	3

才 病類別一部廃棄頭数

区分	疾病名	豚	牛			とく	めん羊	山羊	馬
			和牛	乳牛	計				
呼吸器系	肺炎(SEP様)	13,263	0	0	0	0	0	0	0
	〃(ヘモフィルス様)	409	0	0	0	0	0	0	0
	〃(その他の型)	6	54	161	215	1	0	0	0
	肺膿瘍	214	0	0	0	0	0	0	0
	胸膜炎	8,261	178	348	526	0	0	0	0
	小計	22,153	232	509	741	1	0	0	0
循環器系	心外膜炎	5,705	15	145	160	1	0	0	0
	心筋炎	0	8	30	38	0	0	0	0
	小計	5,705	23	175	198	1	0	0	0
消化器系	胃炎	4	18	139	157	1	0	0	0
	胃潰瘍	0	1	7	8	0	0	0	0
	腸炎	1,679	47	198	245	1	0	0	0
	腸間膜水腫	35	2	14	16	0	0	0	0
	腸間膜脂肪壊死	0	148	8	156	0	0	0	0
	腸結節虫	0	1	13	14	0	0	0	0
	腸間膜抗酸菌症	71	0	0	0	0	0	0	0
	腸気泡症	12	0	0	0	0	0	0	0
	肝炎(膿瘍型)	0	72	228	300	0	0	0	0
	〃(鋸屑肝型)	0	551	817	1,368	0	0	0	0
	〃(胆管炎型)	0	15	55	70	0	0	0	0
	〃(その他の型)	3,374	44	205	249	0	0	0	0
	肝包膜炎	5,153	85	272	357	0	0	0	0
	退色肝	677	3	120	123	1	0	0	0
	肝硬変	0	0	1	1	0	0	0	0
	肝富脈斑	0	40	157	197	0	0	0	0
	肝蛭症	0	0	1	1	0	0	0	0
	寄生肝(豚回虫)	2,095	0	0	0	0	0	0	0
	腹膜炎	1,157	2	56	58	1	0	0	0
	小計	14,257	1,029	2,291	3,320	4	0	0	0
泌尿・生殖器系	腎炎	851	64	241	305	1	0	0	0
	膀胱炎	6	11	27	38	0	0	0	0
	子宮内膜炎	6	6	103	109	0	0	0	0
	乳房炎	0	0	155	155	0	0	0	0
	小計	863	81	526	607	1	0	0	0
運動器系	放線菌症	0	0	4	4	0	0	0	0
	膿瘍	3,198	2	32	34	0	0	0	0
	関節炎	2,101	8	125	133	0	0	0	0
	骨折	57	3	20	23	1	0	0	0
	脱臼	0	5	56	61	1	0	0	0
	筋肉変性	44	0	0	0	0	0	0	0
	水腫	469	13	170	183	1	0	0	0
	褥瘡	0	0	50	50	0	0	0	0
	筋出血(打撲)	997	512	1,374	1,886	1	0	0	0
	小計	6,866	543	1,831	2,374	4	0	0	0
炎症による内臓全廃	799	0	0	0	0	0	0	0	
腫瘍	2	0	0	0	0	0	0	0	
黄疸	0	0	2	2	0	0	0	0	
合計	50,645	1,908	5,334	7,242	11	0	0	0	
廃棄実頭数		29,569	1,253	2,946	4,199	5	0	0	0

カ 病畜疾病別検査頭数

病名	畜種	豚	牛			とく	馬	合計
			和牛	乳牛	計			
禁止								
とさつ	小計	0	0	0	0	0	0	0
全部廃棄	膿毒症	0	0	13	13	0	0	13
	敗血症	0	0	12	12	0	0	12
	尿毒症	0	0	3	3	1	0	4
	高度の黄疸	0	3	13	16	0	0	16
	高度の水腫	0	11	69	80	0	0	80
	豚丹毒	0	0	0	0	0	0	0
	白血病	0	9	22	31	0	0	31
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	23	132	155	1	0	156
循環器系・呼吸器系	心外膜炎	0	0	1	1	0	0	1
	肺炎	0	3	27	30	0	0	30
	肺膿瘍	0	0	0	0	0	0	0
	胸膜炎	0	1	1	2	0	0	2
	小計	0	4	29	33	0	0	33
消化器系	鼓脹症	0	0	1	1	0	0	1
	弛緩症	0	0	0	0	0	0	0
	四胃変位	0	0	12	12	1	0	13
	創傷性胃炎	0	0	2	2	0	0	2
	胃炎	0	1	15	16	0	0	16
	腸炎	0	1	11	12	0	0	12
	腸間膜脂肪壊死	0	2	0	2	0	0	2
	腹膜炎	0	0	19	19	1	0	20
	肝炎	0	0	7	7	0	0	7
	肝膿瘍	0	0	4	4	0	0	4
	胆管炎	0	0	2	2	0	0	2
	肝硬変	0	0	0	0	0	0	0
	肝蛭症	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	4	73	77	2	0	79	
泌尿器・生殖器系	腎炎	0	1	6	7	0	0	7
	膀胱炎	0	0	1	1	0	0	1
	尿石症	0	2	3	5	0	0	5
	臍ヘルニア	0	0	0	0	0	0	0
	子宮蓄膿症	0	0	2	2	0	0	2
	子宮内膜炎	0	0	3	3	0	0	3
	子宮捻転	0	0	1	1	0	0	1
	子宮脱・膣脱	0	1	1	2	0	0	2
	脱肛	0	0	0	0	0	0	0
	乳房炎	0	0	83	83	0	0	83
	難産	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	4	100	104	0	0	104	
運動器系	骨折	0	2	16	18	1	0	19
	関節炎	0	4	102	106	0	0	106
	脱臼	0	5	50	55	1	0	56
	骨軟症	0	0	0	0	0	0	0
	膿瘍	0	0	8	8	0	0	8
	筋間出血	0	2	12	14	0	0	14
	筋間水腫	0	1	2	3	0	0	3
	蹄病	0	0	11	11	1	0	12
	フレグモーネ	0	0	2	2	0	0	2
	小計	0	14	203	217	3	0	220
その他	放線菌病	0	0	3	3	0	0	3
	熱射病	0	0	0	0	0	0	0
	産後起立不能症	0	0	27	27	0	0	27
	原因不明起立不能症	1	1	6	7	0	0	8
	腫瘍	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	4	15	19	0	1	20
小計	1	5	51	56	0	1	58	
合計		1	54	588	642	6	1	650

(6) 試験室内検査実施状況

- ア 行政検査（精密検査）
精密検査（と畜検査に係る検査）の実施頭数は389頭で、検査延件数は4,743件であった。
- イ 受託検査
（株）鳥取県食肉センターから72件の委託を受けて細菌検査を実施した。
- ウ 調査研究
一般病理検査及び食品衛生月間に行った器具や手指のふき取り検査、その他、合計473件の検査を実施した。
- エ TSEスクリーニング検査状況
平成29年4月以降、24か月齢以上の牛のうち原因不明の運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈するものについて、また、めん羊及び山羊については月齢に関わらず削瘦、被毛粗剛、脱毛、搔痒症、関節炎、異常行動、運動失調等を呈するものは検査を行うこととなるが、いずれも該当がなかった。

試験検査の状況

(ア) 行政検査（と畜検査に係る検査）

畜種	検査区分	検査頭数	顕微鏡検査	微生物検査	病理組織検査	理化学検査	検査延べ件数
牛		228	191	1,037	419	57	1,704
豚		161	946	2,062	24	7	3,039
合計		389	1,137	3,099	443	64	4,743
平成29年度		515	535	3,120	306	67	4,028

(イ) 受託検査

項目	検査区分	受託件数	顕微鏡検査	微生物検査	病理組織検査	理化学検査	検査延べ件数
ふきとり検査	牛	24	0	80	0	0	80
	豚	48	0	160	0	0	160
合計		72	0	240	0	0	240
平成29年度		75	0	75	0	0	75

(ウ) 調査研究

項目	検査区分	検体数	顕微鏡検査	微生物検査	病理組織検査	理化学検査	その他	検査延べ件数
一般病理検査		15	0	0	63	0	0	63
微生物汚染防止		18	0	54	0	0	0	54
0157PCR(※)		34	0	180	0	0	0	180
拭き取り(汚染源追及)		12	0	36	0	0	0	36
精度管理		6	0	44	0	40	0	84
残留物質		0	0	0	0	0	0	0
その他(GFAP)		28	0	0	0	56	0	56
合計		113	0	314	63	96	0	473
平成29年度		297	191	363	79	429	0	1,062

(※)0157PCRは0157以外のPCR検査(豚丹毒)を含む。

- (エ) T S Eスクリーニング検査状況
該当なし

2 と畜場等の衛生管理指導

(1) 枝肉等の衛生状態の把握

と畜場の衛生状態を把握するため、枝肉、部分肉及び器具等の拭き取り検査を実施し、検査結果に基づき衛生指導を行った。

拭き取り検査結果

区分	項目	実施回数	件数	成績	<10	10 ^{1~2}	10 ^{2~3}	10 ^{3~4}	10 ⁴ ≦
枝肉	O157	12	36	陰性36	-	-	-	-	-
	大腸菌群数 (/ c m ²)	48	293		283	9	1	-	-
	一般細菌数 (/ c m ²)	48	293		32	132	92	30	7
部分肉	大腸菌群数 (/ c m ²)	1	6		6	-	-	-	-
	一般細菌数 (/ c m ²)	1	6		4	2	-	-	-
器具等	大腸菌群数 (/ c m ²)	1	12		12	-	-	-	-
	一般細菌数 (/ c m ²)	1	12		6	4	1	1	-

(2) 食品衛生月間

食品衛生月間(8/1~8/31)に合わせて枝肉・使用器具等の拭き取り検査を実施し、食肉業者に対して衛生管理について指導した。また、と畜場入り口に垂れ幕及び立て看板を設置して来場者の衛生意識の高揚を図った。

(3) 従事者の衛生教育

と畜従事者全員を対象として、と畜場の衛生管理及び従事者の衛生管理について講習を行い、理解を深めた。

(4) 食品営業許可施設の監視指導

と畜場に併設する食肉処理業、食肉販売業、食品の冷凍冷蔵業の食品営業許可施設について監視を実施(平成30年度3回実施)し、不適事項については改善するよう指導した。

3 と畜検査データフィードバック事業

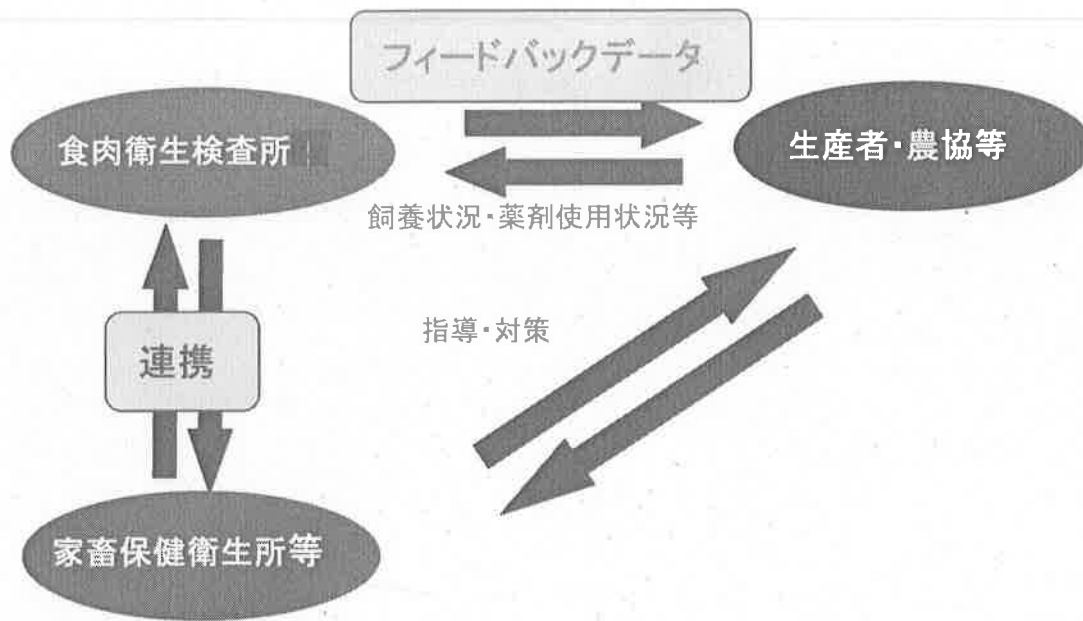
(1) 生産者等へのフィードバック

食肉の安全性確保対策の一環として、平成6年4月から検査データのフィードバック事業を継続している。

と畜検査で得た家畜の疾病状況を1か月ごとのデータとして取りまとめ、家畜保健衛生所及び生産者・農協等へフィードバックしている。

当検査所、家畜保健衛生所及び生産者が連携、協力していくことで、家畜の疾病排除、疾病予防、生産性の向上につながり、ひいては安全な食肉の提供に寄与している。

検査データ還元フロー



フィードバック事業参加者数

区 分	牛	豚
家畜保健衛生所	3	3
生産者	37	24

(2) 臨床獣医師へのフィードバック

臨床獣医師が診断した動物について、検査内容にかかる問い合わせが141件あり、生産現場との連携強化を図った。

4 検体採取等の協力

依頼者	目的	検体
鳥取大学農学部共同獣医学科	牛の妊娠子宮及び胎子の構造理解	牛の妊娠子宮
	家畜の体外受精に関する研究	牛の卵巢
	牛の蹄病に対する CT画像解析に関する研究	牛の後肢蹄関節
	家畜の雌性および雄性生殖器の形態学的 研究（学生実習用）	牛の子宮、 豚の卵巢・子宮、 豚・牛精巢・陰茎
J A全農ミートフーズ（株） 鳥取営業所	自社農場の疾病状況調査	豚の肺及び鼻甲介
鳥取県福祉保健部健康政策課	感染症流行予測調査（日本脳炎）	豚の血液
（独）家畜改良センター 鳥取牧場	生産者の依頼による体外受精のための卵 子採取	牛の卵巢
	人工授精、受精卵移植の受胎率向上のため の職員研修	牛の卵巢、子宮及 び頸管
鳥取県畜産試験場	体外受精に関する研究	牛の卵巢
鳥取県畜産試験場	「鳥取和牛の効率的な改良と増産に向け た体外受精卵利用技術体系の構築」の研究 材料	牛卵巢つき子宮
（社）家畜改良事業団 家畜バイテクセンター	生産者の依頼による体外受精のための卵 子採取	牛の卵巢
鳥取県倉吉家畜保健衛生所	家畜人工授精師講習会の教材	牛の子宮及び卵巢
鳥取県倉吉家畜保健衛生所	肥育豚における関節炎の原因究明	豚の関節液
クラレノリタケデンタル（株）	歯科用接着材料の試験検査及び研究開発	牛の切歯
県立農業大学校	人工授精のための学生実習	牛子宮及び卵巢

5 調査研究

と畜検査時、申請書に記載のない動物用医薬品の使用が確認された事例や、規定された用法・用量以外による投薬事例（特例使用事例）が散発していることから、当所における動物用医薬品が使用された獣畜への対応状況及び不適正使用事例等について報告を行った。

6 食肉衛生検査所PR事業

平成30年度には下記の視察・研修を受け入れ、事業説明・PR等を積極的に行った。

視察・研修会の概要

月 日	来 訪 団 体 名 等	研 修 会	受講者数
7月 5日	鳥取大学共同獣医学科 4年次学生及び担当教官	公衆衛生学実習	39名
7月20日	米子南高等学校 生徒及び担当教諭	検査所見学実習	21名
8月 6日	公立鳥取環境大学環境学部 学生及び教官	場内視察	23名
8月16日	米子医療センター研修医	医師卒後研修	1名
8月22日	日本大学獣医学科 学生	インターンシップ研修	1名
8月28日	鳥取大学共同獣医学科 学生	インターンシップ研修	4名
9月 6日	鳥取大学共同獣医学科 学生	インターンシップ研修	3名
9月20日	中部和牛女子会	と畜場見学	8名
11月 2日	倉吉北高等学校 生徒及び担当教諭	食品衛生学研修	16名
	合 計	9回	116名

Ⅲ 研究発表の記録

1 過去10年間の学会、研修会発表記録

発表年度	演 題 名	学 会、研 修 会	演 者 名
平成 21 年度	残毛対策を中心とした牛と畜処理の衛生改善	食品衛生担当業務研究発表会 全国食肉衛生検査所協議会中国・四国ブロック会議及び技術研修会 食肉衛生技術研修会・衛生発表会（全国）	岩尾 健
	野生動物の解体処理に関するアンケート調査および解体処理工程と処理された食肉の衛生管理に関する調査	食品衛生担当業務研究発表会 中国地区食品衛生監視員研究発表会 鳥取県獣医学会 日本獣医公衆衛生学会（中国）	最首信和
	豚と畜処理における枝肉の汚染要因の検討	食品衛生担当業務研究発表会 鳥取県獣医学会 日本獣医公衆衛生学会（中国） 食肉衛生技術研修会・衛生発表会（全国）	木山真大
平成 22 年度	豚および牛のサルモネラ属菌保有状況	食品衛生担当業務研究発表会	木山真大
	と畜場における豚のサルモネラ属菌汚染状況	中国地区食品衛生監視員研究発表会	木山真大
	豚と畜処理の高度衛生管理について	鳥取県公衆衛生学会	木山真大
	豚丹毒発生に伴う血清抗体価モニタリングと分離株の血清型、遺伝子型および生ワクチン由来株との識別	鳥取県獣医学会 全国食肉衛生検査所協議会中国・四国ブロック会議及び技術研修会 日本獣医公衆衛生学会（中国） 食肉衛生技術研修会・衛生発表会（全国） 日本獣医師会獣医学術学会年次大会	最首信和
	病畜と畜検査の廃棄要因分析と各疾病の血液生化学的検査所見	鳥取県獣医学会 日本獣医公衆衛生学会（中国）	岩尾 健
平成 23 年度	と畜場における牛の腸管出血性大腸菌汚染状況調査	鳥取県公衆衛生学会 食品衛生担当業務研究発表会 中国地区食品衛生監視員研究発表会 鳥取県獣医学会 日本獣医公衆衛生学会（中国） 全国食肉衛生検査所協議会中国・四国ブロック会議及び技術研修会	木山真大

平成 24 年度	牛枝肉の拭き取り検査を活用し たと畜場の衛生管理	食品衛生担当業務研究発表会 (※) 鳥取県公衆衛生学会 (※) 鳥取県獣医学会 中国地区食品衛生監視員研究発表会 獣医師会中国地区三学会 全国食肉衛生検査所協議会中国・四国ブ ック会議及び技術研修会	水谷恵子 森原秀雄*
平成 25 年度	と畜場における牛内臓肉の汚染 状況調査	食品衛生担当業務研究発表会 鳥取県公衆衛生学会 鳥取県獣医学会 中国地区食品衛生監視員研究発表会 獣医師会中国地区三学会 全国食肉衛生検査所協議会中国・四国ブ ック会議及び技術研修会	水谷恵子
	敗血症を呈した牛から分離され た大腸菌の病原性関連遺伝子の 検索	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会	水谷恵子
平成 26 年度	食肉運搬車両の衛生監視指導に ついて	食品衛生担当業務研究発表会 鳥取県公衆衛生学会 中国地区食品衛生監視員研究発表会 食肉衛生技術研修会・衛生発表会 全国食肉衛生検査所協議会中国・四国ブ ック会議及び技術研修会	門木淳子
	敗血症を呈した牛から分離され た大腸菌の病原性関連遺伝子の 検索	鳥取県獣医学会 獣医師会中国地区三学会 (※)	水谷恵子 西尾尚紀*
平成 27 年度	牛枝肉洗浄におけるカンファ水 使用の効果とと畜場の衛生管理	食品衛生担当業務研究発表会 鳥取県公衆衛生学会 中国地区食品衛生監視員研究発表会 全国食肉衛生検査所協議会中国・四国ブ ック会議及び技術研修会 鳥取県獣医学会	谷 泉乃
	と畜検査において認められた豚 の白血病	鳥取県獣医学会 獣医師会中国地区三学会	西尾尚紀

平成 28 年度	牛小腸の処理方法の違いによる汚染状況の比較とカンファ水による洗浄効果の検証	食品衛生担当業務研究発表会 鳥取県公衆衛生学会 中国地区食品衛生監視員研究発表会 全国食肉衛生検査所協議会中国・四国ブロック会議及び技術研修会（※） 鳥取県獣医学会	水谷恵子 織奥真弓*
	鳥取県内の豚における E 型肝炎ウイルス浸潤状況調査	食品衛生担当業務研究発表会 鳥取県獣医学会（※）	瀧奥暁子 山本香織*
平成 29 年度	鳥取県内のと畜場における牛・豚の基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ産生大腸菌の保有状況について	食品衛生担当業務研究発表会 鳥取県公衆衛生学会 中国地区公衆衛生学会 中国地区食品衛生監視員研究発表会 全国食肉衛生検査所協議会中国・四国ブロック会議及び技術研修会 鳥取県獣医学会 獣医師会中国地区三学会 食肉衛生技術研修会・衛生発表会（全国）	水谷恵子
	と畜検査において認められた非定型牛白血病の一例	鳥取県獣医学会 獣医師会中国地区三学会 全国食肉衛生検査所協議会病理部会	西尾尚紀
平成 30 年度	と畜場における動物用医薬品が使用された獣畜への対応について	食品衛生担当業務研究発表会 鳥取県公衆衛生学会 鳥取県獣医学会	大下幸子

公衆衛生

と畜場における動物用医薬品が使用された獣畜への対応について

○大下幸子、織奥真弓、森川伸昭

鳥取県食肉衛生検査所

1. はじめに：動物用医薬品を使用した予防や治療により畜産業の生産性向上がみられる反面、畜産物への残留が食品衛生上問題視され、また、薬剤耐性菌の対策も重要課題と位置づけられている。近年、と畜検査時に申請書に記載のない動物用医薬品の使用が確認された事例や、規定された用法・用量以外による投薬事例（特例使用事例）が散発していることから、当所における動物用医薬品が使用された獣畜への対応状況及び不適正使用事例等について報告する。

2. 対応状況：当所では、治療履歴のある獣畜について病状や動物用医薬品の使用情報を明確に把握するため、獣医師による診断書等を搬入時に携行させている。食肉への残留が疑われる場合はスクリーニング検査を実施し、陽性の場合には、衛生環境研究所に定量検査を依頼する。残留基準値の超過が確認された場合は、食品衛生法の規定に基づき廃棄命令等の処分を行う。また、病畜扱いの獣畜においては、動物用医薬品が適正に使用され使用履歴等が明確なものでも、無作為にスクリーニング検査を実施している。

3. 結果：平成21年度から平成29年度までのスクリーニング検査頭数は299頭で、このうち陰性は287頭、腎臓のみ陽性は8頭、腎臓と筋肉が陽性となったのは4頭であった。この4頭は再検査でも陽性であったため出荷者に情報提供したところ自主廃棄されることとなった。また不適正使用の事例としては、使用履歴に記載のない動物用医薬品の使用があった事例が2件あったが、いずれも飼養者が診断獣医師の指示なしに乳房内注入剤を使用していたものであった。特例使用の事例としては、静脈内又は筋肉内投与用医薬品を乳房内に注入した事例や、皮下又は筋肉内投与用医薬品を膈内に注入した事例等があった。不適正使用が確認された事例では、管轄家畜保健衛生所に情報提供し、飼養者への動物用医薬品の適正使用の指導を依頼した。

4. まとめ：当所で検査している獣畜への動物用医薬品の使用状況は概ね適正であるが、食用に供する獣畜との認識が欠如していると疑われる使用もある。また、定められた用法・用量以外の投薬方法で効果が認められたとの報告もあるが、治療中止後に食用に供する際の安全確保の観点から考えると、関係法令に基づき、使用対象動物や用法・用量等の使用基準を遵守するよう、関係機関への情報提供や周知を継続していくことが重要であると感じた。今後も引き続き、厳正な検査、詳細な診断書の確認や聞き取り、スクリーニング検査など、食肉の安全確保に努めていきたい。

IV 参 考 资 料

1 年度別と畜検査頭数（鳥取県）

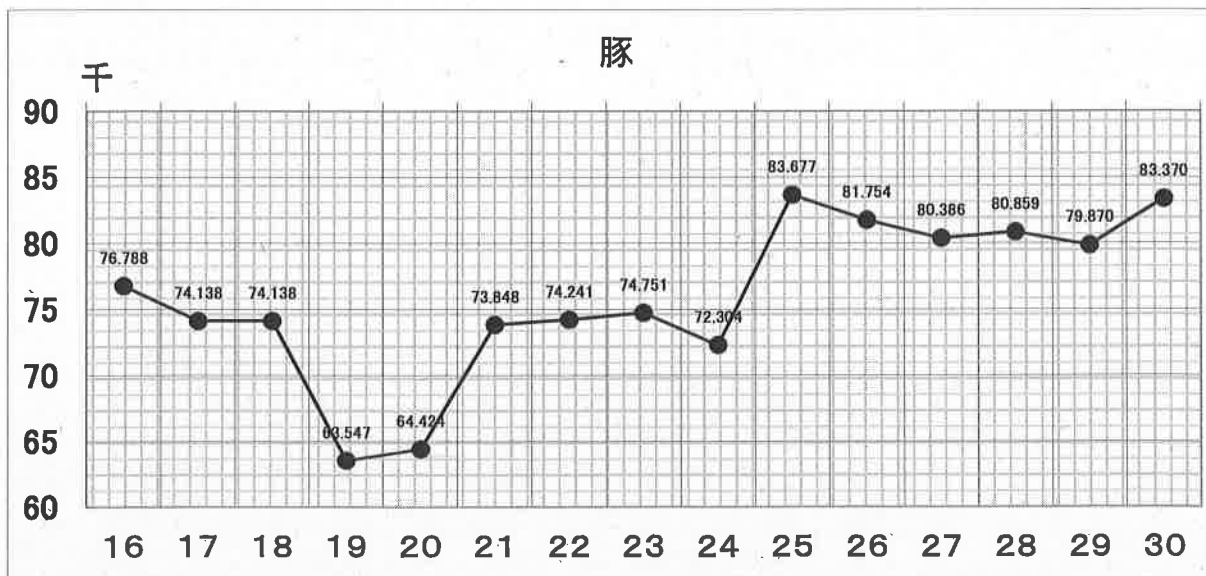
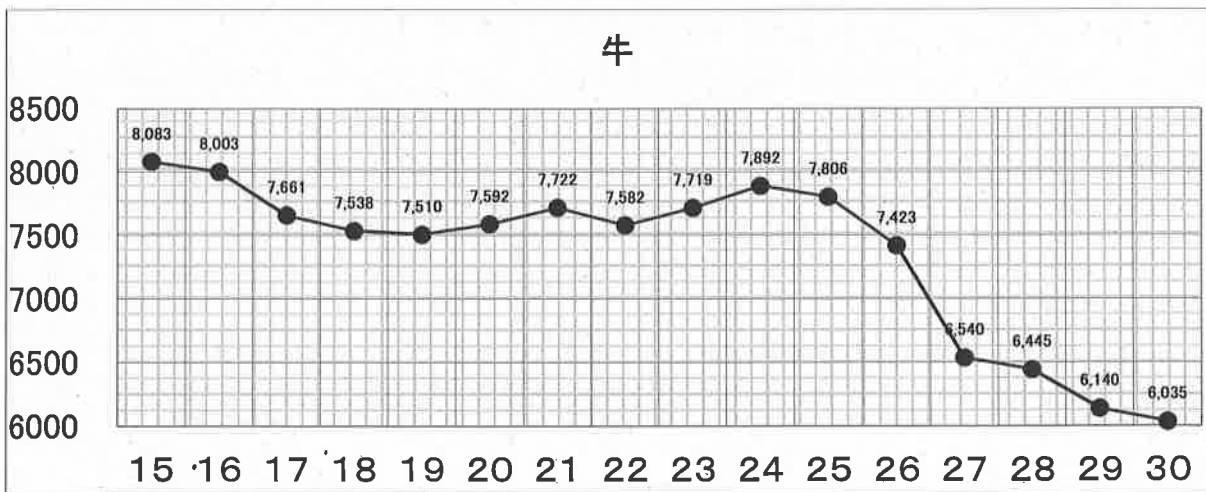
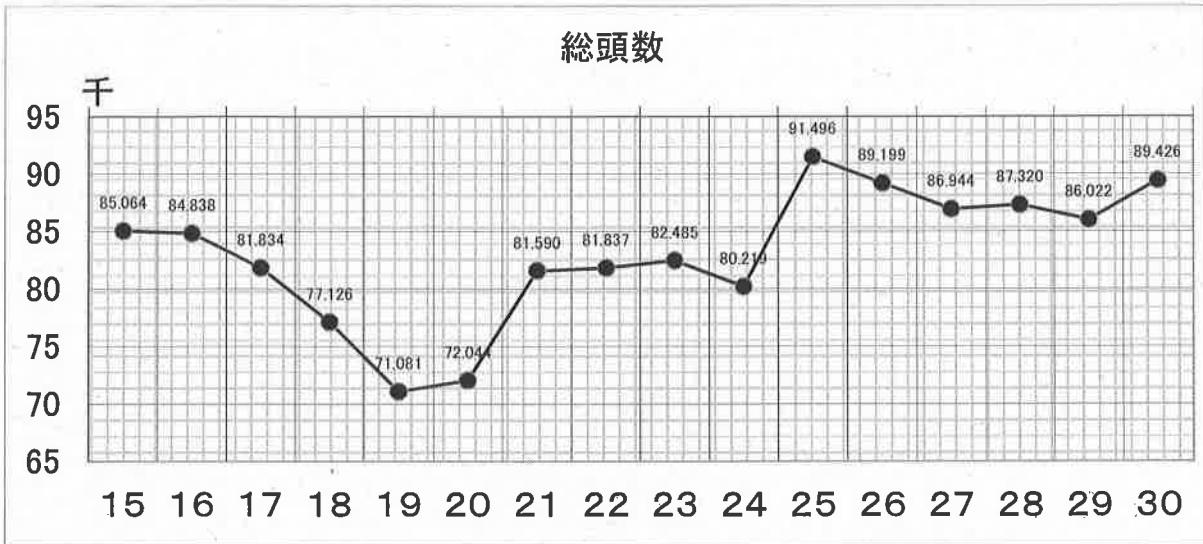
年度	と畜検査頭数			病畜検査			廃棄頭数				試験室内検査	
	総数	と畜場内	場外	総数	時間内	時間外	総数	全部	禁止	一部	頭数	件数
62	136,154	136,098	56	1,767	1,642	125	53,385	200	2	53,185	1,390	13,566
63	128,388	128,370	18	1,590	1,483	107	47,860	131	0	47,729	1,568	12,755
1	124,142	124,080	62	1,483	1,350	133	53,861	129	0	53,732	1,903	14,029
2	121,401	121,364	37	1,573	1,450	123	55,014	139	3	54,875	1,198	11,859
3	108,270	108,254	16	1,593	1,499	94	45,489	166	1	45,323	1,353	11,935
4	102,716	102,690	26	1,622	1,540	82	44,910	187	0	44,723	1,153	11,616
5	96,845	96,844	1	1,669	1,626	43	44,140	212	0	43,928	616	7,726
6	82,509	82,508	1	1,679	1,642	37	38,062	237	1	37,825	880	24,544
7	79,625	79,624	1	1,531	1,500	31	37,656	244	1	37,412	865	20,015
8	69,900	69,899	1	1,627	1,591	36	31,693	158	2	31,535	1,007	11,410
9	63,289	63,288	1	1,539	1,513	26	29,769	152	1	29,617	900	11,902
10	69,032	69,032	0	1,515	1,500	15	34,826	137	0	34,689	637	7,906
11	67,343	67,343	0	1,406	1,387	19	30,379	150	2	30,229	607	9,220
12	68,063	68,063	0	1,221	1,209	12	28,849	153	1	28,696	829	7,529
13	73,109	73,109	0	1,136	1,133	3	29,202	155	0	29,047	421	4,478
14	79,599	79,599	0	1,062	1,060	2	31,776	170	1	31,605	544	7,505
15	85,064	85,064	0	1,094	1,091	3	41,213	228	3	40,985	590	8,550
16	84,838	84,838	0	991	988	3	39,492	225	2	39,267	606	10,096
17	81,834	81,834	0	1,004	999	5	32,817	134	1	32,683	504	4,809
18	77,126	77,126	0	929	927	2	37,427	186	0	37,241	564	6,677
19	71,081	71,081	0	864	864	0	34,956	232	4	34,724	572	7,443
20	72,044	72,044	0	893	893	0	32,117	212	1	31,905	632	8,167
21	81,590	81,590	0	727	727	0	32,079	161	0	31,918	699	4,493
22	81,837	81,837	0	719	719	0	31,941	122	0	31,819	877	4,593
23	82,485	82,485	0	673	673	0	36,752	157	0	36,595	913	5,008
24	80,219	80,219	0	679	679	0	38,467	128	1	38,339	944	4,944
25	91,496	91,496	0	721	720	1	43,231	149	1	43,082	863	5,218
26	89,199	89,199	0	623	623	0	48,922	131	1	48,791	433	3,190
27	86,944	86,944	0	629	629	0	45,273	155	0	45,118	503	3,549
28	87,317	87,317	0	599	599	0	40,368	189	3	40,179	540	3,952
29	86,022	86,022	0	599	598	1	35,047	158	0	34,889	515	4,028
30	89,426	89,426	0	650	649	1	34,072	299	0	33,773	396	4,058

2 畜種別と畜検査頭数（鳥取県食肉センターと畜場）

年度	総頭数	牛			馬	とく		豚	めん羊	山羊	開場日数
		和牛	乳牛	計		大	小				
17	81,834	2,107	5,554	7,661	3	16	74,138		16	242	
18	77,126	1,905	5,633	7,538		14	69,554	2	18	242	
19	71,081	2,103	5,407	7,510		14	63,547	1	9	242	
20	72,044	2,143	5,449	7,592	1	11	64,424	7	9	240	
21	81,590	2,280	5,442	7,722		4	73,848	12	4	241	
22	81,837	1,962	5,620	7,582	1	5	74,241	6	2	243	
23	82,485	2,083	5,636	7,719		4	74,751	8	3	243	
24	80,219	2,234	5,658	7,892		6	72,304	12	5	242	
25	91,496	2,112	5,694	7,806		2	83,677	11		244	
26	89,199	2,345	5,078	7,423		9	81,754	10	3	244	
27	86,944	1,962	4,578	6,540		10	80,386	7	1	241	
28	87,317	1,937	4,508	6,445		10	80,856	2	4	245	
29	86,022	1,823	4,317	6,140		8	79,870	3	1	242	
30	89,426	1,797	4,238	6,035	1	7	83,370	10	3	242	

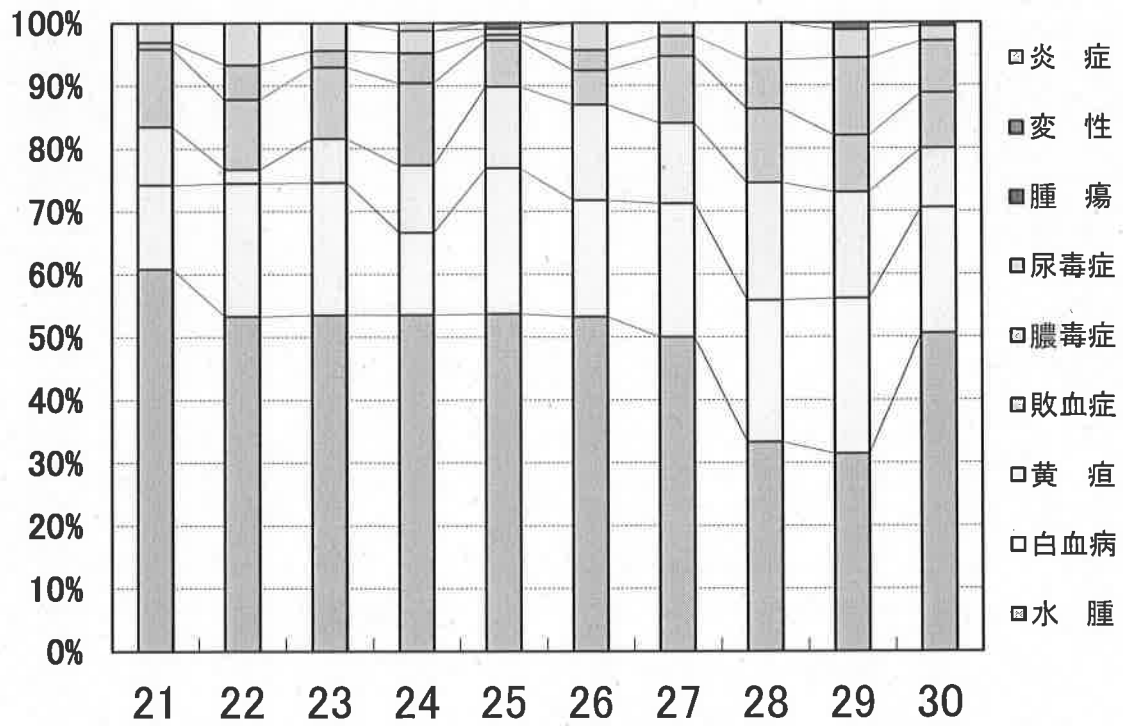
注：「とく」は生後1年未満の牛、小とくは生体50kg未満、大とくは生体50kg以上のもの。

3 と畜検査頭数の推移

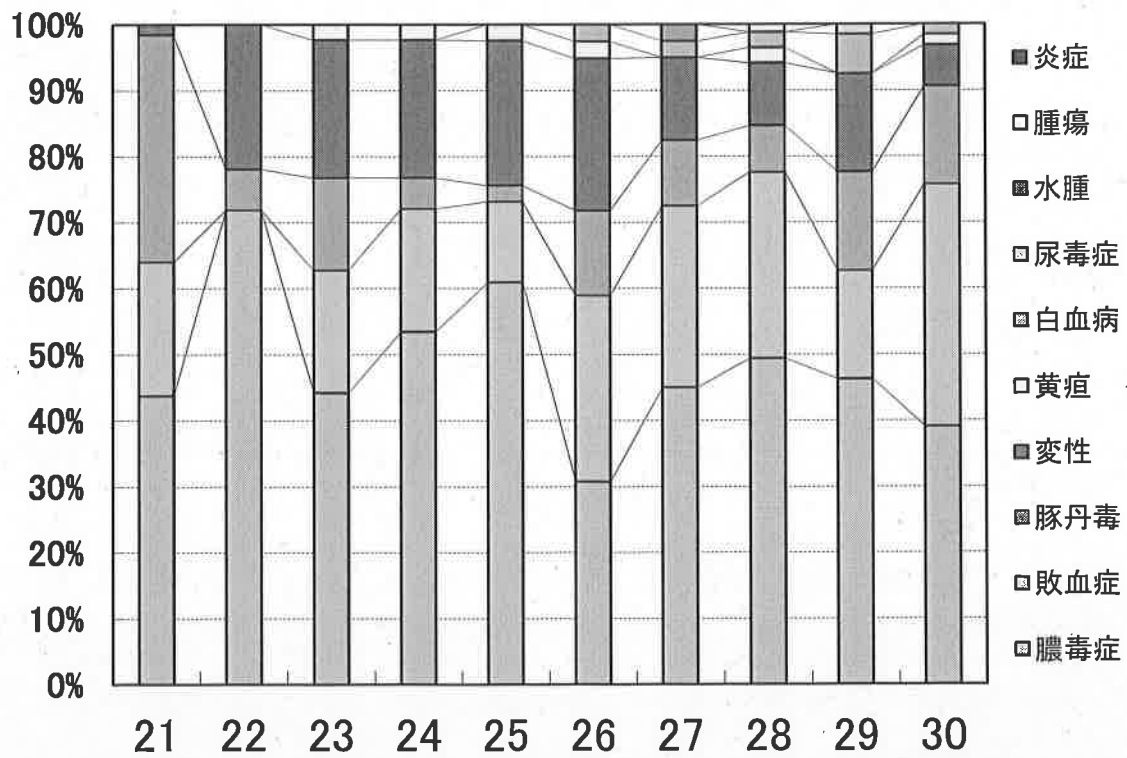


4 全部廢棄原因別狀況

牛



豚



5 検査結果に基づく処分頭数

(単位：頭数、%)

区 分	総 数						平成30年度の畜種別内訳					
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	牛	馬	とく	豚	めん羊	山羊
検査頭数	91,496	89,199	86,944	87,317	86,022	89,426	6,035	1	7	83,370	10	3
処分頭数 (処分率)	43,232 (47.3)	48,923 (54.8)	45,273 (52.1)	40,371 (46.2)	35,047 (40.7)	34,072 (38.1)	4,369 (72.4)	0	6 (85.7)	29,697 (35.6)	0 (0)	0 (0)
内 訳	と殺・ 解体禁止	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	全部廃棄 (処分率)	149 (0.16)	131 (0.15)	155 (0.18)	189 (0.22)	158 (0.18)	299 (0.33)	170 (2.8)	0	1 (14.3)	128 (0.15)	0 (0)
	一部廃棄 (処分率)	43,082 (47.1)	48,791 (54.7)	45,118 (51.9)	40,179 (46.1)	34,889 (40.6)	4,199 (69.6)	0	5 (71.4)	29,569 (35.5)	0 (0)	0 (0)

6 鳥取県食肉衛生検査所案内図

- 列車を利用される方へ
JR山陰本線 御来屋(みくりや) 駅から検査所までの公共交通機関はありません。予め検査所へ御連絡ください。
* 御来屋駅から車で7分(約6km)
- 車で来所される方へ
山陰自動車道または国道9号線をご利用ください。詳細は下図を御参照ください。なお、不明な場合は検査所へ御連絡ください。
* JR米子駅から車で40分

